

第6回 ニックピュアハート エッセー大賞

<中学の部 優秀賞>

「人生のキャンバスに」

木村彩乃

「あなた、将来何になるの？」

両親に、そう問われることが多くなった。

「まだよく分からない」

私は決まってそう答える。

私の人生のキャンバスには、まだほんの少ししか色が着いていない。まだまだ白い部分がむき出しだ。

幼い頃に思い描いていた「夢」は、本気で叶えたいと願うものではなく、ただの「憧れ」だったのではないかと今は思う。ただ、中二になった今は「夢」を「現実」としても見られるようにしなくてはならない。それはとても難しいことだと思う。だけど、将来の夢を将来の職業として実現させるために、今からもう考えていく必要があると思う。今はもう、「夢をみる」だけではいけない。「夢を叶える」ために行動を始めなくてはならない。

私が今まだみているだけの「夢」はたくさんある。私は絵を描くことが好きなので、まんが家やイラストレーターにもなってみたい。物語をつくるのも好きだから、小説家やシナリオライターにも興味がある。また、人と関わっていく仕事もしてみたいし、人工衛星もつくってみたい。やりたいことはたくさんあるけれど、実現させられるものは限られてくる。だから、本当にやりたいことを自分で選んでいかななくてはならないのだ。でも、ただ「やりたい」だけではなく、「やれる」ものではなくてはならない。夢の選択を迫られた時ひとつでも多く「やれる」ものを用意しておけるのが理想だ。そのために今は、たくさんのかんことを学び、知っていき、人生の選択肢を増やす。できることはそれだけだと思う。

さて、どの絵の具を、どの知識を使おうか。

パレットにどんな夢を並べようか。

キャンバスに、どんな人生を描こうか。